

森の日記

2026年4月5日～2026年7月23日まで

by 迷鳥キツキ

4月5日はカエルの卵の産卵状態の調査の1回目が行われました。去年の第1回目の調査の際には調査地にまだ雪が残っていて、カエルの卵はほとんど見つからなかったのですが、本日の調査ではたくさん見つかりました。エゾサンショウウオの卵もありました。調査地ではフクジュソウ、アズマイチゲ、ザゼンソウなどが咲いていました。調査後には遊歩道沿いで小さなアオイスミレも観察しました。また、半年ほど病気で活動を休んでおられたNさんが久しぶりに出てこられて、最後まで調査に付き合ってくださいました。無事に回復されて良かったです。



左：調整池で調査



右：上の池で調査

4月12日はカエルの卵の産卵状態の調査の2回目が行われました。2家族から4名の子供たちも参加したので賑やかな調査になりました。エゾアカガエルの産卵は先週すでに好調でしたが、今週はそれより少し増えていた程度でした。



左：ヤマメの稚魚



右：下の池で調査

魚取り網を持ったメンバーも多く、ヤマメの稚魚などを捕らえて喜んでいました。ずっと曇天だったので、フクジュソウやアズマイチゲなどは閉じているものが多かったです。フクジュソウは実を結び始め、ミ

ズバショウの開花数が増え、エンコウソウやタチツボスミレが、まだほんの少しですが咲き始めていました。

4月19日の午前中は帯広の森の清掃活動を行いました。いつも生物調査や管理作業をおこなっている範囲内のゴミを拾い集めました。公園利用者によって何気なく捨てられた食べ物や飲み物の容器や袋、家庭ゴミの不法投棄などによるものです。塵も積もれば山となるという言葉のように、たくさんのゴミが集められました。午後にはカエルの産卵状態調査の3回目が行われましたが私は参加できませんでした。



集めたゴミの分別

4月25日の午前中は鳥類観察会がありました。気温は低めで、集合場所の気温は朝9時に6.9℃、観察会が終わった11時半には12.1℃でした。調査のルートはいつもの植物調査ルートのほぼ南半分でした。ベニマシコ、ゴジュウカラ、シジュウカラなどを見ることができました。さまざまな植物の芽吹きの様子も観察しました。この観察会は5月24日に一般の参加者も募って行われる「エゾリスの会の鳥類観察会」のための4回のリハーサルの中の1回でした。



左：調査出発



右：ヤナギに止まるベニマシコ

4月26日は午前中にカエル類の卵の調査、午後に植物調査がありました。当日の朝9時頃の気温は6.5℃と低かったですが、昼頃には20℃近くまで上昇しま

した。エゾアカガエルの産卵は4月12日の2回目の調査の時点ですでにピークに達し、先週と今週の調査では新しい卵塊は数個ずつしか見つかりませんでした。ヤナギ類は雌花が実を結びもうすぐ綿毛を飛ばし始めます。ニリンソウが満開に近くなり、タチツボスミレも咲き始めました。カエル調査には8名の、植物調査には13名の会員が集まり、久しぶりに賑やかでした。植物調査には出産と育児で1年ほど活動を休んでおられたMさんが復帰されました。



左：上の池にて

右：第2 柏林台川の谷で調査



左：オオバナノエンレイソウ

右：カラマツの雌花

5月6日の早朝には鳥類調査が、10時から植物調査が行われましたが、私は参加できませんでした。

5月10日の午前中は集合場所にあった古いテーブルと椅子を、冬に間伐したチョウセンゴヨウで作った新しいものに取り替えました。昼からは1年間のまとめをする総会が行われました。お昼ご飯にはお米屋さん特製の美味しいおむすびを頂きました。集合場所付近の森ではオオバナノエンレイソウやベニバナイチヤクソウ、フデリンドウなどが咲いていました。朽ちた間伐材の丸太の中にはクワガタムシの幼虫がいました。4年ほど前に作ったホダ木からは椎茸がたくさん生えていました。



左：テーブルの作成



右：新しいテーブル用の丸太。



左：新しいテーブルで休憩。

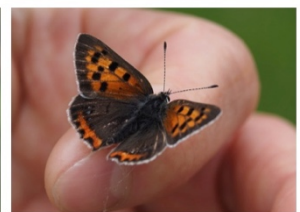


右：総会後におにぎりでご飯。

5月17日は午前中にチョウの調査、午後に植物調査がありました。天気は終日曇りでした。気温は朝9時に14℃、12時に13℃と全く上がりませんでした。そのためかチョウの出現は非常に少なくモンキチョウを1頭とベニシジミを1頭捕獲しただけでした。しかし、今の季節の植物の様子をじっくりと観察できました。午後の植物調査ではプロの植物調査マンに加わって頂いたので、調査を正確に進めることができて良かったです。



左：エゾハルゼミ



右：ベニシジミ



左：植物調査集合時



右：スズラン

5月24日の午前中にはエゾリスの会の探鳥会が行われましたが、私は参加できませんでした。

5月31日は朝6時からエゾリスセンサス、午前10時からチョウの調査がありました。エゾリスセンサスには10人の大人の会員と2人の子供会員が参加し、5つのコースに分かれて、決められたコース上で見かけたエゾリスの数を数えました。私は会長さんと2人で帯広の森の北西部での調査を行いました。自然林の部分が多いのですが、エゾリスは1頭も現れませんでした。調査後、各コースの結果を聞いたところ、公園部を調査した班ではそれなりに多数のエゾリスを見ることができたそうです。エゾリスは人為的な環境を好むようです。会長さんと私が担当したコースではエゾリスの数が少なかったですが、ゼンテイカやベニバナイチヤクソウなど季節の花を楽しむことができました。



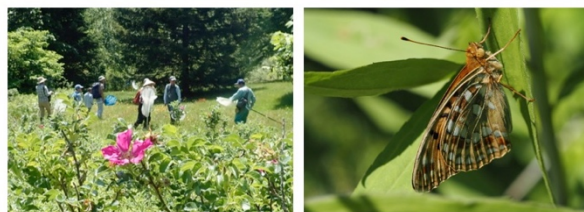
左：センサス開始前 右：センサス終了後くつろぐ会員

10時からのチョウの調査にはさらに多くの会員が参加しました。最初に通る森林部ではクロヒカゲが多数現れました。その後、草原部ではウスバアゲハ、ギンイチモンジセセリなどを多数確認することができました。他にもモンシロチョウ、カラスアゲハ、シロオビヒメヒカゲ、サトキマダラヒカゲなどのチョウと、ウンモンズズメ、ミミモンエダシャクなどの蛾を見ることができました。調査路上ではエゾノレンリソウ、ヒレハリソウ、アヤメ、ササバギンラン、コンロンソウ、コウリントンポポ、ハイコウリントンポポなどの花が咲き始めていました。



左：チョウの調査開始前 右：調査中の会員

6月14日は朝の9時からチョウの調査、13時から植物調査に参加しました。朝6時から鳥類調査もありましたが、私はチョウの調査から参加しました。絶好の天気です。チョウの調査も植物調査も気持ちよく行うことができました。チョウの調査ではクロヒカゲ、ヒメウラナミジャノメ、ウスバアゲハ、ベニシジミ、ギンイチモンジセセリなどを多数見ました。



左：調整池付近で調査 右：ウラギンヒョウモン

植物調査は毎回行なっている蕾、花、実を着けている植物をすべて記録するモニタリング調査に加えて、半年ごとの指標種調査も行いました。これは植樹林が自然林に近づいていくことの指標となる植物をルートに沿ってカウントする調査です。大変でしたが、いろいろ珍しい植物を観察することができました。



左：指標種の調査前半 右：調査後半



左：ワニグチソウ 右：サイハイラン

6月21日はいつものルート上の植物調査ではなく、オオアワダチソウを除去したのちに森林から在来種の草木を移植した試験区の定着状況とオオアワダチソウの残存率を調査しました。2家族からの子供メンバーも参加し、楽しく調査をすることができました。しかし、いつも中心となって活動を進めてくださるメンバ

ーさんが今日は都合で来られず、調査に参加した人数も少なかったので、予定の調査を全て終えることができず、23日に追加調査を行うことになりました。

なお、「移植」という言葉を使いましたが、移植元の自然林に負担をかけないように、草本は種子採取→撒き付け→移植というステップを踏んでいます。ウワミズザクラは枝が地について発根したもの、ホザキシモツケは栄養繁殖したものの株の一部を用いています。これは植樹林の中や縁のものです。



左：調査開始時 右：オオアワダチソウの抜き取りと計数

6月23日は21日に完了できなかった森林植生回復試験区の植生調査を、リーダーのMさんの他にIさん、家族、会長さん、Nさんと私で行いました。試験区に生えている全ての植物を見つけ出す仕事でしたが、皆で知恵と力を出しあって昼前には終えることができました。朝方は少し湿っていましたが次第に天気も良くなり、暑すぎることもなく快適に調査をすることができました。



左：植物種調査中 右：ホザキシモツケの花